
二百文字詩集「虹色交差点」

那音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二百文字詩集「虹色交差点」

【Nコード】

N8485Z

【作者名】

那音

【あらすじ】

いろいろな声を通ります。

君の全部が好きだから

どうしようもなく愛しくて、どうしようもなくほしくて。

君を遠くから眺めていたくて、君を近くに感じていたくて。

君に好きって言いたくて、言えなくて。

どんな言葉を投げかければ、君は振り向いてくれるのかな。

愛してるじゃ足りない。身体中から溢れ出すこの気持ちは、どうすれば伝わるの？

考えても答えはでないんだ。

この気持ちを伝えるには、きっと言葉じゃだめなんだね。

もっと君を好きになれば、勝手に言葉は出てくるのかな。

恥ずかしがり屋

こっち向いて。

だいじょうぶ、こわくないよ。知ってるだろ、そんなこと。

どうしたのさ、顔赤いよ。体調悪いの？

もうずいぶん寒くなってるんだから、風邪なんかひかないようにな。

最近メールも電話もロクにしてないけど、ちゃんと言いたいことわかってるつもりだから。

てか、君は相変わらさずの恥ずかしがり屋だから、こっちが汲み取らないといけないでしょ。

すっかり君に慣れてしまったからさ、もう今更なにがあっても動じやないよ。

笑っちゃいなよ

たとえば考えてる言葉がなにもかも伝わるとしたら、人間の文化で言葉は廃れていくんだろう。

そんな風にさ。泣いてばっかいると、笑い方忘れちゃうよ。

悲しむのも大切だけど、僕はそんな君を笑えないよ。

すこし寂しくても、思い出せればいつだって近くにいてるって思えるはず。

泣き顔が似合う君じゃないからさ。

どんなに辛くても前を向けとは言わないけど、俯いてばっかだと誰かにぶつかるよ。

落ち着いてからでいいから、前向きなせ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8485z/>

二百文字詩集「虹色交差点」

2011年12月28日20時57分発行